

救急科専門研修プログラム

We Deliver The Best



 飯塚病院

innovate and evolve

はじめに

救急科専門医、そして飯塚病院の救急科専門研修プログラムに興味をもっていただきまことにありがとうございます。

本プログラム冊子は飯塚病院が理想とする救急科専門医とその専門医を目指すにあたって、当院が準備している研修内容をお伝えしたいと思い作成いたしました。

本プログラム冊子は救急科専門医を目指す皆様がもっとも重要と考える部分を中心に従来のプログラム冊子よりコンパクトに作成しました。

プログラム冊子をご覧頂き、当院についてさらに知りたいと思ったら、まずは当院に見学に来ていただけますと幸いです。

皆様からのご連絡お待ちしております。

目次

はじめに.....	1
救急科専門医の使命	3
飯塚病院救急科専門研修プログラムの理念.....	3
プログラムの概要と特徴.....	4
専攻医の評価・修了判定について.....	4
定員と研修期間について	4
研修施設群の概要と指導医	5

救急科専門医の使命

救急科専門医の社会的責務は、医の倫理に基づき、急病、外傷、中毒など疾病の種類に関わらず、救急搬送患者を中心に、速やかに受け入れて初期診療に当たり、必要に応じて適切な診療科の専門医と連携して、迅速かつ安全に診断・治療を進めることにあります。さらに、救急搬送および病院連携の維持・発展に関与することにより、地域全体の救急医療の安全確保の中核を担うことが使命です。

飯塚病院救急科専門研修プログラムの理念

飯塚病院救急科専門研修プログラムを通じて、1次から3次まで、僻地・離島あるいは大都市における全ての救急診療に対応できる基本的能力を身に付ける救急科専門医を育成するとともに皆さんの救急科専門医取得後のキャリアプランも見据えた研修を提供します。



プログラムの概要と特徴

ER 型救急医育成コース

<対象>

- 1次から3次まで幅広い症例を経験したい方。
- 外傷に強い救急科専門医を目指したい方
- 救急部のみでなく、院内41科で研修したい方

<特徴>

- 重篤患者受け入れ 1,933件 全国第11位
- ER総受診者数(walk in+救急車) 約32,000人/年
- 脳神経外科、外科の医師がERを兼任しており
外傷に強い先輩医師から指導を受けることができる。
- 総合診療科の医師がERの指導医として

<研修モデル>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
専攻医 1年目	飯塚病院ER						飯塚病院 総合診療科 (重症チーム)			飯塚病院 集中治療科		
専攻医 2年目	連携施設研修						飯塚病院ER					
専攻医 3年目	循環器内科			麻酔科			飯塚病院ER					

※ローテーション先や期間については専攻医の希望を加味し、調整します。

専攻医の評価・修了判定について

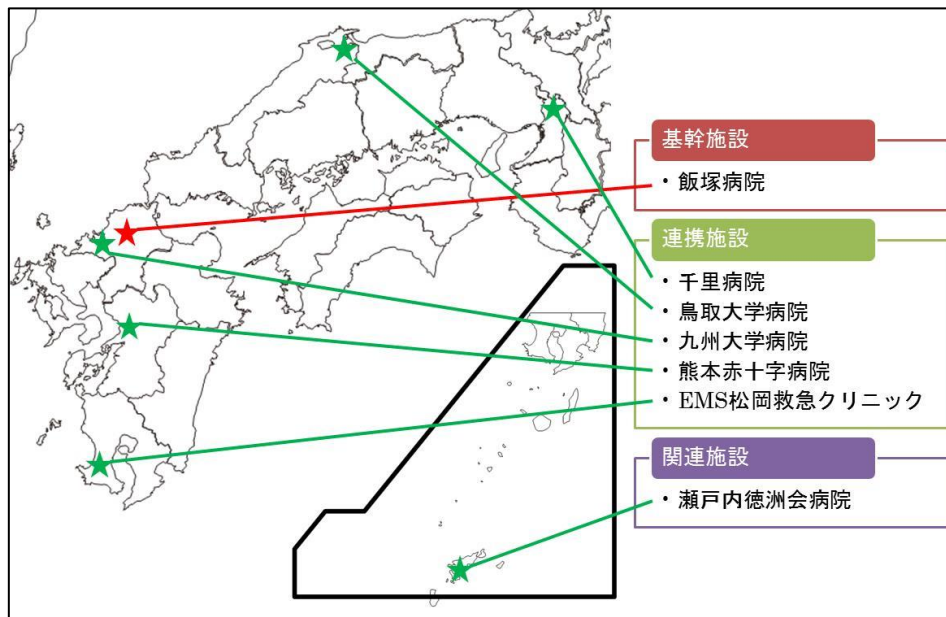
年に2回、『専攻医研修実績フォーマット』を用いて『プログラム管理委員会』にて研修状況を評価し、専門医認定の申請年度(専門研修終了時あるいは以後)に修了判定を行います。詳細は別紙の『救急科専攻医マニュアル』をご覧ください。

定員と研修期間について

定員：4名/年(2018年度申請実績)

研修期間：3年間

研修施設群の概要と指導医



①飯塚病院

□施設概要

- ・ 病床数：1,048
- ・ 救急科領域の病院機能
 - 救命救急センター、災害拠点病院、ドクターカー配備
 - 地域メディカルコントロール協議会中核施設
 - DMAT 指定医療機関
- ・ 救急車受入れ件数 7,161 件 (2016 年)
- ・ 救急外来受診者数 34,684 人 (2016 年)
- ・ 集中治療部 総入室患者数 734 人 (2017 年)
- ・ 共通講習 (医療安全、医療倫理、院内感染対策) を院内で受講可能

□指導医紹介

- ・ プログラム統括責任者 鮎川勝彦
- ・ 救急科専門研修指導医数 4 名 (統括責任者含む)
 - 安達普至、山田哲久、平松俊紀

□施設紹介

- ・ 飯塚病院救命救急センターは、福岡県筑豊医療圏人口 43 万人唯一の 3 次救急施設であり、1 次、2 次救急患者も数多く受け入れております。

②千里病院

□施設概要

- ・病床数：343 症
- ・救急科領域の病院機能
三次救急医療機関（救命救急センター）、災害拠点病院
ドクターカー配備、地域二次救急医療機関
地域メディカルコントロール（MC）協議会中核施設
- ・救急車受入れ件数 4,155 件（2017 年度）
- ・救急外来受診者数 8,467 件（2017 年度）

□指導医紹介

- ・救急科専門研修指導医数 9 名
指導医名：林靖之、澤野宏隆、伊藤裕介、夏川知輝、大谷尚之、
小濱圭祐、大津谷耕一、吉永雄一 佐藤秀峰

□施設紹介

- ・緑に囲まれ街との調和がとれた千里地域に位置する当院は、社会福祉法人である済生会の病院として「心のこもった医療」を病院の理念として掲げている。積極的な病診連携を図り、地区の開業医も診療に協力、登録医約 731 名（2018.4.1 現在）を有するオープンシステムの急性期病院である。2006 年 4 月 1 日に千里救命救急センターと併合して 1 次から 3 次までの救急に完璧に対応できる病院となった。同年 7 月 1 日には災害拠点病院に対応した新館に移転している。病院の延床面積 28,800 平米で、最新の設備、診療機器のもとで研修が行える。

□研修内容

- ・救命救急センターに所属。
 - 1.初療室で救急車搬入患者対応を行う。
 - 2.救急患者の手術、カテーテル治療に助手として参加する。
 - 3.ICU や病棟に入室となった救急患者の集中治療を主治医として担当する。
 - 4.希望者にはドクターカーに乗務してもらい、病院前救急診療に参加する。

□連携施設研修目標

- ・救急患者、特に重症患者の診療について、初期対応だけでなく、その後の侵襲的治療や集中治療について、総合的に理解を深めること。

③鳥取大学病院

□施設概要

- ・ 病床数：697 床
(一般 649、精神 40、結核 6、感染症 2)
- ・ 救急科領域の病院機能
三次救急医療施設（救命救急センター）
災害拠点病院、日本 DMAT 指定病院
鳥取県 DMAT 指定病院
原子力災害拠点病院ドクターカー配備
ドクターヘリ基地病院
医師同乗型ドクターヘリ医師搭乗施設
- ・ 救急車受入れ件数 2515 件（2013 年度）
- ・ 救急外来受診者数 5346 人（2013 年度）

□指導医紹介

- ・ 救急科専門研修指導医数 3 名
指導医名：本間正人、齋藤憲輝、亀岡聖史

□施設紹介

- ・ 鳥取県米子市に位置し、地域に密着した救急医療を提供しています。救命救急センターとして三次救急医療を提供するとともに、多くの救急車患者、Walk-in 患者に対応しています。年間約 400 件のドクターカー出動に加え、平成 30 年 3 月よりドクターヘリの基地病院として現場からの救急医療を実践しています。鳥取中部地震の際には災害拠点病院として機能すると共にこれまでも様々な災害に対して DMAT や国際緊急援助隊の一員として活動してきました。

□研修内容

- ・ 救急外来でのガイドラインやエビデンスに基づいた診療
- ・ 救急病棟での救急集中治療
- ・ ドクターカーやドクターヘリに搭乗するための基礎的な知識・技術（搭乗の可否は研修期間により異なります）
- ・ 災害拠点病院、DMAT、原子力災害拠点病院の従事者に必要な基本的な知識、研修会、訓練の参加 など

□連携施設研修目標

- ・ 2 次救急患者や Walk-in 患者に対し単独で診療できる能力を目標とします。さらに、三次救急患者に対してはチームの一員として初療や集中治療管理ができる能力を獲得することを目標とします。さらにドクターカーやドクターヘリによる現場活動を実践できる基本的な知識や能力を学びます。



④九州大学病院

□施設概要

- ・ 病床数 :
- ・ 救急科領域の病院機能
救命救急センター、災害拠点病院、DMAT 指定医療機関、
福岡地域メディカルコントロール協議会中核施設
- ・ 救急車受入れ件数 1,951 件 (2015 年)
- ・ 救急外来受診者数 人 (2016 年)

□指導医紹介

- ・ 救急科専門研修指導医数 2 名
指導医名 : 永田高志、日浅謙一

⑤熊本赤十字病院

□施設概要

- ・ 病床数 : 490
- ・ 救急科領域の病院機能
救命救急センター、小児救命救急センター、赤十字国際医療救 援拠点病院、
熊本県基幹災害拠点病院
- ・ 救急車受入れ件数 7,924 件 (2016 年)
- ・ 救急外来受診者数 68,001 人 (2016 年)

□指導医紹介

- ・ 救急科専門研修指導医数 6 名
指導医名 : 奥本克己、桑原謙、林田和之、加藤陽一、岡野雄一、井上克一

□施設紹介

- ・ 熊本赤十字病院救命救急センターは、昭和 55 年 3 月から、熊本県における救急医療の拠点として、24 時間 365 日、一次救急から三次救急まで全ての救急患者の受入を行っており、「断らない救急」の実現を目指しています。救急専門医をはじめ、各専門医と病院全体のバックアップ体制で、年間 6 万人以上の救急患者を受け入れており、熊本県のドクターヘリ基地病院としての役割も担っております。重症患者の搬入には、ドクターヘリ、防災ヘリ、ドクターカーを積極的に活用し、熊本市救急ワークステーションを院内に設置するなどプレホスピタルケアについても強化に努めています。

□研修内容

- ・熊本赤十字病院ERでの勤務を行います。昼夜問わず、救急車や直接来院患者（以下 Walk-In）に対応するため、完全2交代制のシフト勤務体制を敷いています。

夜勤の後は、最低24時間 off であることが約束されています。

●日勤（8：00～20：00）

スタッフリーダー1名+スタッフまたは専攻医2-3名+初期研修医1-2名

●夜勤＝準夜+深夜（20：00～翌8：00）

スタッフリーダー1名+スタッフまたは専攻医1-2名+初期研修医1-2名

●休み

基本的に呼び出されることはありません

<専攻医の勤務例>

1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
準夜	深夜	日勤	準夜	深夜	休み	準夜	深夜	日勤	休み	準夜	深夜	日勤	学会	休み

- ・シフト中は、救急車、Walk-In 患者の対応を行います。救急隊からの搬送以来のホットラインは全て医師が受け、場合によってはオンラインメディカルコントロールを実施します。
- ・傷病状況やリクエストに応じてドクターカーでの現場出動や、熊本市消防局のワークステーションを通しての現場出動にも対応しています。
- ・夜間、特に深夜帯は緊急度の判断を慎重に行ったうえで治療を開始しながら ER で管理を行い、翌朝各科にコンサルテーションをしたり、入院をさせたうえで翌朝各科に引き継いだりという診療を積極的に行っています。
- ・研修期間、学年に応じてドクターヘリの体験搭乗を受けることも可能です。体験搭乗では主に見学とフライトドクターの診療の補助を行います。

□連携施設研修目標

●1年次

- ・プレホスピタルで上級医の補助をしながら活動できる
- ・基礎的な救急診療が行える
- ・チームの一員として上級医の補助をしながら重症患者の診察ができる
- ・初期臨床研修医からコンサルトを受けることができる

●2年次

- ・プレホスピタルで主体的に活動できる
- ・応用的な救急診療が行える
- ・チームの一員として上級医と共に主体的に重症患者の診療ができる
- ・様々なレベル、職種に教育的な配慮ができる

⑥EMS 松岡救急クリニック

□施設概要

- ・救急科領域の病院機能
救急告示クリニック
- ・救急車受入れ件数 件（2017年） 687件
- ・救急外来受診者数 人（2017年） 8296人

□指導医紹介

- ・救急科専門研修指導医数 1名
指導医名：松岡良典

□施設紹介

- ・鹿児島県南九州市にある4床の有床診療所である。薩摩半島の中心に位置しており、薩摩半島全体から患者さんが集まる。24時間、365日救急医療と普段のかかりつけ医も行っている。救急車は3次救急まで受け入れており、地域の最後の砦として機能している。

□研修内容

- 1) 1次救急から3次救急までの救急手技を習得する。
JATEC、ACLS、BLSに基づいて救急の基本手技を実践する。輪状甲状靭帯切開、心嚢穿刺、心嚢開窓術、開胸心臓マッサージ、緊急ペーシング、経静脈ペーシング、開腹ガーゼパッキング、持続的血液濾過透析、緊急麻酔などの応用手技も習得する。
当施設では重症患者に対して救命のために徹底した外科的処置を行っている。
救急診療指針に基づいて知識・手技の習得を目指す。
- 2) かかりつけ医としてあらゆる疾患の診断・治療法を習得する。
当施設では、かかりつけ医としてあらゆる疾患の定期外来を行っている。専門科あるいは臓器別ではなく、一人の患者さんに生じているあらゆる病変に対して、診断・治療を行っている。
担当領域は、がんの発見、血管病の予防（高血圧、脂質異常、糖尿病管理）、整形外科・脳外科・循環器・呼吸器・一般内科外来、小児外来、専門外来（リウマチ・漢方）、外傷、健診など多岐に渡る。
関節腔内注射、神経ブロック、胸水・腹水穿刺、骨折・脱臼整復、異物摘出、内視鏡検査など習得できる手技も多い。
- 3) 圧倒的な救急患者数を診察・治療する。
病院と異なる点は、全患者を自分で診察・診断し、治療方針まで立てる必要があることである。責任を持って診察することで、診断能力が飛躍的に上昇する。MRI、CT、採血など全ての検査が24時間可能である。
* 研修期間中は指導医が指導します。

4) 整形外科の基本手術を研修する。

助手・執刀医として、整形外科の手術（年間 100 例）を経験する。

上下肢骨折外傷、開放骨折、四肢切断・再接着、四肢ピンニング、腱縫合、手根管症候群、ばね指、ドケルバン氏病、肘部管症候群、軟部腫瘍摘出などの手術を行う。

救急領域で必要な処置、減張切開術、創外固定、鋼線牽引などの基本となる手技を身につけることができる。

5) 学会発表と論文作成を行う。

当施設は学会発表、論文作成を積極的に行っている。

余裕がある研修医は学会発表や論文の作成の指導まで行う。

海外の impact factor のある雑誌に投稿する。

□連携施設研修目標

- ・ 1 次救急から 3 次救急までの救急手技を習得する。
- ・ かかりつけ医としてあらゆる疾患の診断・治療法を習得する
- ・ 整形外科の基本手術を研修する。
- ・ 学会発表と論文作成を行う。

⑦瀬戸内徳洲会病院

□施設概要

- ・病床数：60床
- ・救急科領域の病院機能
救急告示病院
- ・救急車受入れ件数 270件（2017年）
- ・救急外来受診者数 1,608人（2017年）

□指導医紹介

- ・救急科専門研修指導医数 0名
- ・外科学会専門医・肝臓学会専門医 1名
- ・日本消化器外科学会指導医 1名
- ・日本プライマリ[^]ケア学会指導医 1名
- ・日本専門医機構総合診療領域特任指導医講習会受講済 1名

□施設紹介

1.施設基準

- ・60床、急性期一般入院料5、入院基本料
- ・入院料・・・地域医療包括ケア、特殊疾患入院医療
- ・入院加算・・・急性期看護補助、療養環境、救急医療管理、重症者特別後発医薬品、感染防止対策、退院調整、医療安全認知症ケア、診療録等
- ・医学管理料・・・夜間休日救急搬送医学管理料、薬物管理指導料、ニコチン依存症管理料、小児外来診察料、がん性疼痛緩和指導管理料、がん治療連携指導料等
- ・リハビリ・・・脳血管疾患、運動器、呼吸器がん各リハビリテーション料
- ・在宅・・・医学総合、療養支援等
- ・介護・・・指定居宅サービス事業所、指定居宅介護支援事業所

2.24時間対応・・・CT（64列）MRI（1.5テスラー）、単純レントゲン写真臨床検体検査（採血・検尿）可能、当院救急車あり

3.胃カメラ、大腸カメラ、超音波検査、人工呼吸管理、透析可能、全麻可能

□研修内容

- 1.個々の患者の背景を理解し、介護福祉と連携した高齢者医療が出来る。
- 2.初診患者（救急患者を含む）、入院患者、在宅患者の総合診療が出来る。
- 3.高齢者の救急医療が出来る。

□連携施設研修目標

- 1.加計呂麻徳洲会診療所・・・離島の診療所で総合診療が出来る。
- 2.グループホームあぎなの郷で訪問診療が出来る。